

今、切り開く**教育力** 大谷大学3学部化シンポジウム【教育学部※新設編】

# Be Real “寄りそう教育”

## —次の世代へのメッセージ—



子どもが好き、という気持ちだけで教育はできるのか。多様化、複雑化するこれからの時代を担う子どもたちに対して、私たち大人世代は何ができるのでしょうか。

本シンポジウムでは、次世代育成の要となる子どもたちの「こころ」を育てる真の教育について考えていきます。

※教育学部は設置届出中のため、名称・内容などは予定であり、変更される場合があります。

基調講演

次の世代への  
メッセージ  
—今私たちに  
できること—

住田 裕子氏 (弁護士)



日時  
2017年  
**7月15日** 土  
開場／13時30分  
開演／14時  
終了／16時(予定)

参加無料  
定員 **300人**  
事前申込制

場所  
**大谷大学 講堂**  
(京都市北区小山上総町)  
京都市営地下鉄烏丸線  
国際会館行「北大路」駅すぐ、  
JR京都駅から乗車時間約13分

ディスカッション

出演者

住田 裕子氏  
関口 敏美  
大谷大学文学部教育・心理学科教授  
【教育学部長就任予定】  
富岡 量秀  
大谷大学短期大学部  
幼児教育保育科教授  
【真宗保育 幼児教育学】  
コーディネーター  
友澤 和子  
朝日新聞出版  
「大学ランキング」元編集長

Be  
Real

大谷大学の教育を学内外に対して示す、象徴となる新しいメッセージ。「Real」には仏教でいう「真実」と、目の前にある「現実」の2つの「実」の意味を込め、「Be」は「足場をおく」「成る」を表す。つまり、真実を求めると、人間や社会の現実から目を離さないという2つを同時に表現している。



大谷大学／大谷大学短期大学部

〒603-8143 京都市北区小山上総町 URL: <http://www.otani.ac.jp>

大谷大学

検索

# Be Real “寄りそう教育” 一次の世代へのメッセージ

主催/大谷大学 共催/朝日新聞社メディアビジネス局

後援:京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、滋賀県、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市、大阪市教育委員会

## 出演者プロフィール

### 住田 裕子氏 (弁護士)

すみた・ひろこ●1951年兵庫県加古川市生まれ。東京大学法学部卒業。1979年東京地検検事に任官。1982年に女性初の法務省民事局付検事として民法・国際私法などの改正を担当。1990年に全省庁女性初の法務大臣秘書官に就任。司法研修所教官などを経て、1996年弁護士登録し、さまざまな公職や獨協大学特任教授などを歴任。現在、NPO長寿安心会の代表として長寿社会の安全安心な社会づくりのために奮闘中。「住田裕子の老後安心相談所」「住田裕子の離婚相談所」などの著書・論文多数。同業の夫との間に2子あり。



### 富岡 量秀

(大谷大学短期大学部 幼児教育保育科教授  
【真宗保育 幼児教育学】)

とみおか・りょうしゅう●1967年東京都生まれ。日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。1991年～2000年、建設会社に勤務。聖和大学大学院教育学研究科博士前期課程修了。大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文学)。真宗保育への学びを基軸にしなが、保育の楽しさや難しさへの考察を展開。また園の環境デザインへも保育実践の視点から取り組んでいる。



### 関口 敏美

(大谷大学文学部教育・心理学科教授【教育学部長就任予定】)

せきぐち・としみ●大阪府生まれ。1989年奈良女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻単位取得退学。博士(学術)。1989年大谷大学特別研修員。1991年大谷大学短期大学部専任講師。2002年大谷大学文学部助教授。2008年から現職。教職支援センター副センター長。教育史の立場から柳田國男や大江スミ、井上秀らに学びながら、学校や子どもの歴史を手がかりにして教育問題を考えている。



### ■コーディネーター

友澤 和子 (朝日新聞出版「大学ランキング」元編集長)

ともさわ・かずこ●朝日新聞出版書籍編集部署部長。横浜市出身。早稲田大学教育学部卒業後、朝日新聞社入社。新聞・雑誌記者時代、教育問題を多く取材。「朝日新書」創刊に携わり、「一日一生」などベストセラーを多く手掛ける。「AERA」副編集長、「AERA大学ムック」「AERAイングリッシュ」「大学ランキング」などの編集長を経て現職。高校生、中学生の2人の母でもある。



## 応募方法

はがき・FAX・電子メール・WEBフォームのいずれかで①郵便番号・住所②氏名③年齢④性別⑤電子メールまたは電話番号⑥職業⑦参加希望人数⑧シンポジウムで聞きたいこと(任意)を明記して、下記まで応募ください。

- はがき: 〒530-8612 日本郵便(株)大阪北郵便局私書箱191号  
朝日新聞大阪本社メディアビジネス局  
「大谷大学7月シンポジウム」係
- FAX: 06-6231-9029 (24時間受け付け)
- 電子メール: otani@asahi.com (24時間受け付け)
- WEBフォーム: <http://www.asahi-web.net/otani3/> (24時間受け付け)

※FAX、電子メールには「大谷大学7月シンポジウム」と明記してください。※応募者多数の場合は抽選。当選の発表は聴講券の発送をもって代えます(聴講券の発送は開催日1週間前をめどとします)。※お預かりする個人情報は、本シンポジウムの実施運営に関わる業務の目的以外には使用しません。

お問い合わせ: 朝日新聞大阪本社メディアビジネス局 TEL06-6201-8302 (平日10時~17時)

